

横浜市立瀬ヶ崎小学校 学校便り

せがさきの風

大きな朝日さしのぼる 希望と愛の花が咲く
〒236-0037 横浜市金沢区六浦東三丁目2番1号
TEL 781-2446・2447 FAX 701-4892
ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/segasaki/>
メールアドレス y3segasa@edu.city.yokohama.jp



9月号
2020（令和2）年
8月28日発行

当たり前の日々

学校長 梅田 比奈子

2週間という短い夏休みでしたが、子どもたちの元気な笑顔と声が学校に戻ってきました。今年は、異例づくめの「夏」と言われています。公共のプールは、ほとんどやっていませんでした。神奈川の海水浴場もオープンしていません。郷里に帰れた人、帰れなかった人、両方の方々がいました。そんな夏休み、子どもたちは、どのように過ごしたのでしょうか。二週間の間、私たちは、夏休み後の様々な事を考え、具体的に計画をたてたり、下見に行ったりしました。子どもたちのうれしそうなお顔を思い浮かべながら・・・

夏休みには、戦争に関わる日があります。8月6日は、広島に、そして、8月9日は長崎に原爆が落とされた日です。そして、8月15日。

ずいぶん前のことになりますが、私は、かつて、8月5日と6日に、広島を訪問したことがあります。6日は平和記念式典が開催される日です。その前日5日の夕方の平和公園の風景を私は、今も昨日の事のように覚えています。様々な碑に手を合わせる人たちの姿。記念式典前日の静寂の中で、ありし日の人々に思いをはせる姿を・・・

今年の平和記念式典は、例年より縮小された形で開催されました。広島を思いをつなぐ式典。きっと、前日には、私がかつて見た風景があったのではないかと思います。今年の子ども代表は6年生。二人が「平和への誓い」を宣言しました。その一部を紹介します。

「75年は草木も生えぬ」と言われた広島町。75年がたった今、広島町は、人々の活気に満ちあふれ、緑豊かな町になりました。

この町で、家族で笑い合い、友達と学校に行き、公園で遊ぶ。気持ちよく明日を迎え、様々な人と会う。当たり前の日常が広島町には広がっています。

しかし、今年の夏は違いました。当たり前だと思っていた日常は、ウィルスの脅威によって奪われたのです。当たり前の日常は、決して当たり前ではないことに気づかされました。そして、今、私たちはそれがどれほど幸せかを感じています。

・・・・・・・・略・・・・・・・・

私たちは、互いに認め合う優しい心を持ち続けます。私たちは、相手の思いに寄り添い、笑顔で暮らせる平和な未来を築きます。

被爆地広島で育つ私たちは、当時の人々が諦めずつないでくださった希望を未来へとつないでいきます。

「当たり前の日々」の大切さ。幸せ。それをこの6年生は語り、「互いに認め合う優しい心」「相手の思いに寄り添う」こと、さらに「希望を未来へとつなぐ」と続けています。広島メッセージは、横浜に暮らす私たちにも大切なことを語りかけています。

人と人をつなぐ、今と未来をつなぐ・・・過去から学び、未来をつくる、そして、「当たり前」を大事にしていく・・・そんなことを心に刻んだ夏休みでした。

これから、様々な教育活動が始まります。「当たり前の日々」をどうしたらつくっていただけるのか、考えている毎日です。